



「誠実で☆キラリと光る☆
ナンバーワン&オンリーワン」を目指して



TOTETSU

2017年9月
東鉄工業株式会社
(東証1部:1835)



目次

目次

1. 会社概要	P. 4~11
2. 事業部門別業況	P. 12~15
3. 環境認識と事業展開	P. 16~27
4. 中期経営計画	P. 29~35
5. 今後の展望	P. 36~39
6. 業績推移	P. 41~47
7. ご参考	P. 48~49

出席者

代表取締役社長	柳下 尚道
取締役専務執行役員	
経営企画本部長	宮本 潤二
経営企画本部	
広報・IR部長	新妻 誠

(本資料は、全て連結決算数値で表示しております)



- | | |
|---------------------|-----------------|
| 1. 会社概要 | P. 4~11 |
| 2. 事業部門別業況 | P. 12~15 |
| 3. 環境認識と事業展開 | P. 16~27 |

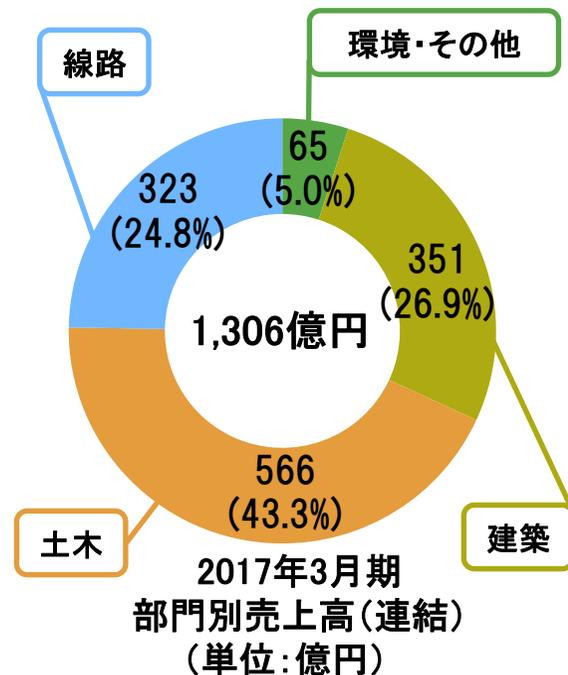


1. 会社概要

(2017年3月31日現在／連結)

鉄道関連工事の専門技術をコアコンピタンスとする総合建設業

会社名	東鉄工業株式会社(TOTETSU KOGYO CO.,LTD)
本社所在地	東京都新宿区信濃町34番地 JR信濃町ビル
資本金	28億1,000万円
代表者	代表取締役社長 <small>やぎした なおみち</small> 柳下 尚道
従業員数	1,781人
連結子会社	東鉄機工株式会社・東鉄メンテナンス工事株式会社 東鉄創建株式会社・興和化成株式会社
売買単位	100株
株主構成	主要株主については7ページをご参照





1. 会社概要 【沿革】

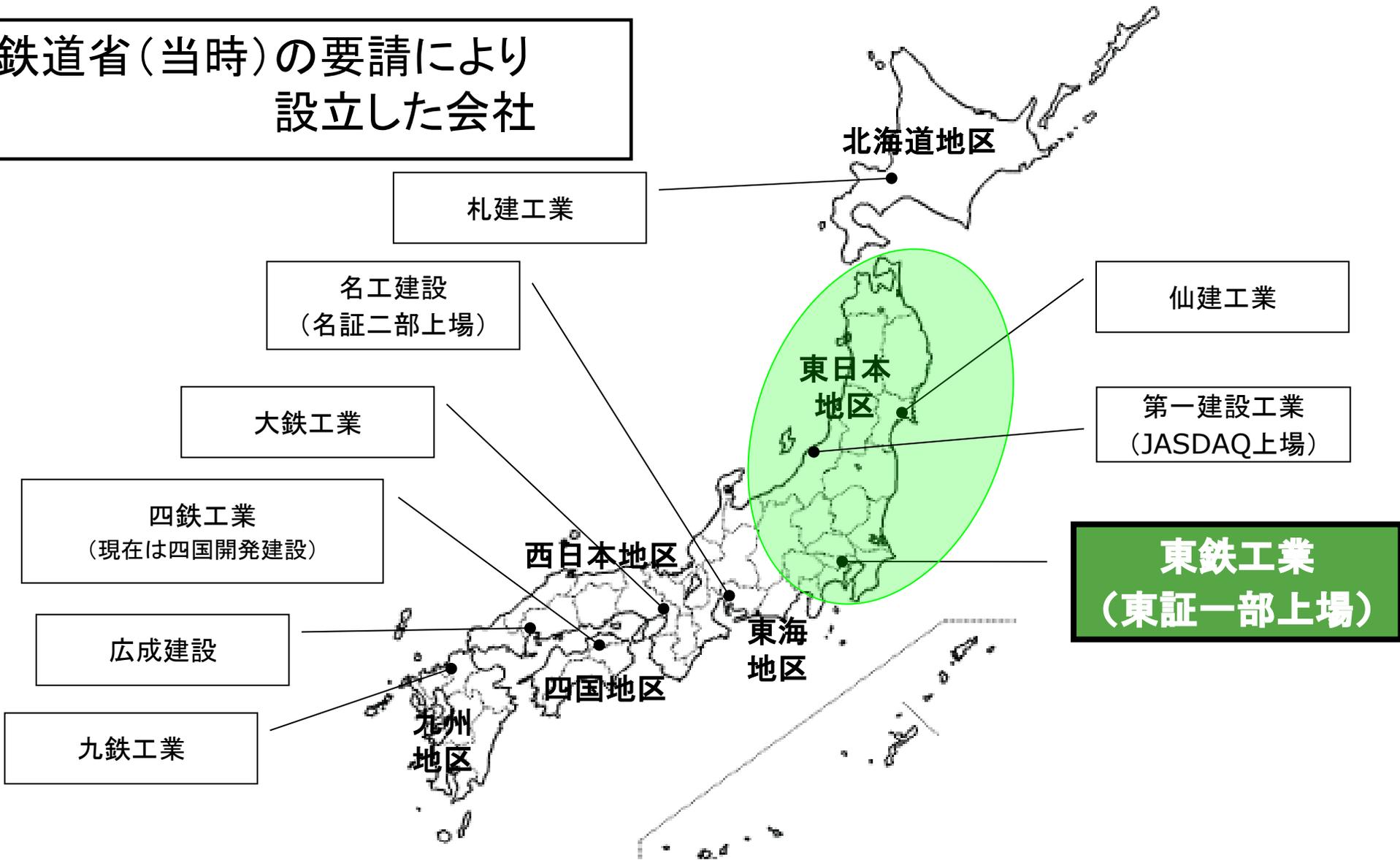
設立以来74年の歴史

年	月	沿革
昭和18年	7月	「東京鐵道工業株式会社」設立 〔 鐵道の保持・強化を目的に、当時の鐵道省の要請により、關東地方の建設業者が企業合同し、国策会社「東京鐵道工業株式会社」として、丸の内1丁目1番地に設立 〕
昭和27年	7月	商号を「東鐵工業株式会社」に変更
昭和37年	11月	株式を東京証券取引所市場第二部に上場
昭和47年	10月	株式を東京証券取引所市場第一部に上場
平成24年	4月	中期経営計画『東鐵3D Hop2015』をスタート
平成25年	3月	興和化成株式会社を子会社化
平成27年	4月	中期経営計画『東鐵3D Step2018』を新たにスタート
平成29年	7月	創立74年



1. 会社概要 【保線を支える主な企業】

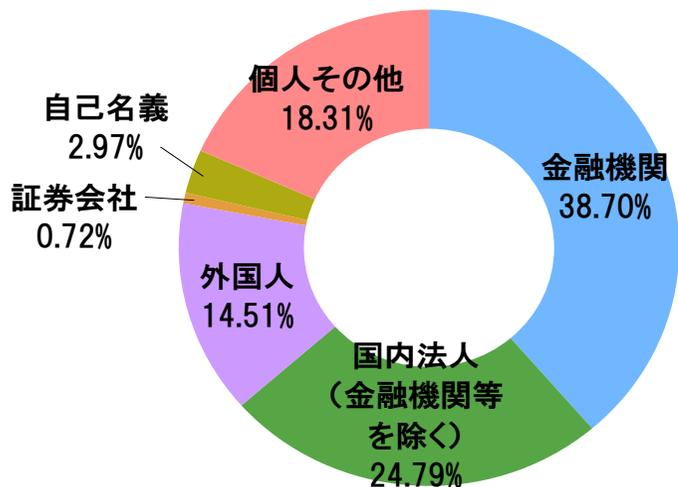
鉄道省(当時)の要請により
設立した会社





1. 会社概要 【株主構成】

所有者別分布状況 (2017年3月31日現在)



大株主の状況(上位10名) (2017年3月31日現在)

株主名	当社への出資状況	
	持株数 (千株)	持株比率 (%)
東日本旅客鉄道株式会社	3,659	10.45
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	3,351	9.57
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	1,880	5.37
日本電設工業株式会社	1,088	3.11
BBH FOR MATTHEWS JAPAN FUND	859	2.45
株式会社みずほ銀行	789	2.25
株式会社常陽銀行	777	2.22
鉄建建設株式会社	770	2.20
東鉄工業社員持株会	732	2.09
明治安田生命保険相互会社	731	2.09

(注)持株比率は、自己株式(1,071,619株)を控除して計算しております。



1. 会社概要 【各事業の特徴】

「鉄道」を軸に、相互に補完しあう4つの事業部門

JR東日本を中心に、線路メンテナンス工事
シェア我国No.1

高性能な大型保線機械の稼働力を誇る

軌道新設工事(新幹線・地下鉄・私鉄)・
首都圏プロジェクトの実績豊富



線路事業

「東鉄^{エコソー}ECO2プロジェクト」を強力推進中

ECO(エコ)関連ビジネス積極展開中

太陽光発電・緑化(壁面・苔)・
アスベスト除去 等々

他部門とのシナジーを活かした事業展開



土木事業

東鉄工業の強み

鉄道関連工事の
リーディングカンパニー

高い専門的
技術力

安定した
受注



環境事業

鉄道土木関連特殊工法に強み

耐震補強の実績が豊富

防災・立体交差工事等の高い技術力

整備新幹線の実績豊富



建築事業

駅関連施設/鉄道近接建物に強み

マンション・オフィス・店舗・工場等の実績豊富

リニューアル・耐震補強等の受注拡大中

環境事業と協働で、ワンストップショッピングサービス、
一気通貫サービスを展開中



経営理念

～安全はすべてに優先する～

当社は、鉄道専門技術の特性を活かした総合建設業として、安全で快適な交通ネットワークと社会基盤の創造に貢献いたします。

事業ビジョン

- ・鉄道関連工事のリーディングカンパニーとして、
- ・その高い専門的技術力と、安定した受注の強みを活かし、
- ・線路・土木・建築・環境各事業のバランスの取れた事業構造のもと、
- ・専門プロ集団として、建設業界に独自の地歩を確保してまいります。



1. 会社概要 【コーポレートメッセージ】

誠実で ☆キラリと光る☆ ナンバーワン & オンリーワン

誠実で

- ・「究極の安全と安心」の追求
- ・「技術と品質」へのこだわり
- ・「環境」への取組み
- ・「人を大切にする」企業風土
- ・「誠実なCSR経営」の推進



☆キラリと光る☆

線路	軌道メンテナンス工事や、高性能な大型保線機械の稼働力などにおいて、質・量ともに我国ナンバーワン、そして常に未来に挑戦し続ける、☆キラリと光る☆…
線路 土木 建築	コア3部門においては、鉄道関連・耐震・防災・リニューアル・メンテナンス工事など、当社独自の高い専門性と強みを最大限に活かす…
環境	時代を先取りした環境事業「東鉄ECO2プロジェクト」を積極的に推進する…
これら4つの事業部門が相互にバランスよくシナジーを発揮し、他に類を見ない、ユニークで先進的なビジネスモデルと専門的な技術力により、お客様の多様なニーズにお応えすることができる、☆キラリと光る☆…	



ナンバーワン & オンリーワン

- 「ナンバーワン」の東鉄工業を目指します
- 「オンリーワン」の東鉄工業を目指します



1. 会社概要 【当社ビジネスモデルと特徴】

「東鉄工業」とは・・・

<ビジネスモデル>

鉄道専門技術を活かした総合建設会社
(鉄道関連工事のリーディングカンパニー)

安全で快適な交通ネットワークと
社会基盤の創造に貢献する会社
(東日本大震災/東北新幹線等の早期復旧にも貢献)

日本一の鉄道線路メンテナンス会社
(誠実で☆キラリと光る☆「ナンバーワン」の東鉄工業)

4つの事業部門が相互にシナジーを発揮する
ユニークなビジネスモデルを持つ総合建設会社
(誠実で☆キラリと光る☆「オンリーワン」の東鉄工業)

<経営方針と特徴>

「究極の安全と安心」を追求する会社
(技術と品質への徹底的なこだわり)

「誠実で、すべてのステークホルダーから信頼される」
ことを目指す会社
(人を大切にする経営)

JR東日本とのパートナーシップに基づく
安定した受注の強みを持つ会社
(官公庁・民間一般工事(含む私鉄)受注も強化中)

安定した業績と、圧倒的に健全な財務内容を誇る会社
(経審Y評点 9期('09/3期~'17/3期)連続No.1達成)
※建設経済研究所による主要建設会社決算分析40社の内、一部上場34社を対象



2. 事業部門別業況 (1) 線路部門

線路メンテナンス工事・高性能な大型保線機械の稼働力では我国「ナンバーワン」
鉄道関連工事のリーディングカンパニー



マルチプルタイタンパー



レール削正車



新潟駅付近連続立体交差工事



都電荒川線 軌道移設工事
(東京都 交通局)



2. 事業部門別業況 (2) 土木部門

鉄道・道路関連工事・耐震補強・防災工事に強み



JR 土木構造物修繕工事



JR 橋りょう構造物修繕工事



パース提供:JR東日本

シナジー部門
線路部門

JR京浜東北線 ホームドア新設工事
(現在9駅を施工中)



シナジー部門
線路部門

JR成田線 高架橋(ランガー橋)新設工事



2. 事業部門別業況 (3) 建築部門

駅関連・リニューアル・他部門との連携工事等に強み



パース提供: JR東日本

JR総武本線 榎戸駅橋上化工事

シナジー部門

線路部門



千葉大医学部アメニティ施設新築工事
(一般財団法人 同仁会)



梶原工業新工場新築工事
(梶原工業株)

シナジー部門

環境部門



日本ルツポ大阪倉庫新築工事
(日本ルツポ株)



2. 事業部門別業況 (4) 環境部門

『東鉄ECO^{エコ}2プロジェクト』の推進 = 建築部門等とのシナジーを活かす



JR信濃町駅
アロマステーション化プロジェクト
(環境省・アロマ環境協会賞 受賞)

- ・シナジー部門 建築部門等
- ・「一気通貫サービス」
- ・「ワンストップショッピングサービス」

「エコステ」
省エネルギー、再生可能エネルギーなど、
様々な環境保全技術を駅に導入する
JR東日本の取り組み

当社では四ツ谷、海浜幕張、湯本、小淵沢、
武蔵溝ノ口、浦和の6駅の施工を担当
(2017年8月現在)



風力発電機

JR京葉線
海浜幕張駅エコステ化工事
(風力発電)



「みどり香るまちづくり」企画コンテスト
(環境省・審査員特別賞 受賞)



現場仮囲い緑化



梶原工業新工場 屋上緑化



①安全・安心ニーズの高まり

- ・安全で快適な交通ネットワークを支える鉄道メンテナンス(JR東日本など) (P.12)
- ・ホームドア整備・駅施設などのバリアフリー化(JR東日本) (P.17、18)
- ・免震マンションなどをはじめとする安心安全な建築物(民間一般) (P.18)

②復旧・復興・防災・減災対策

- ・東日本大震災への対応 (P.19)
- ・首都直下地震対策関連工事(JR東日本) (P.20、21)
- ・土木・建築構築物の耐震補強工事(官公庁・民間一般) (P.22)
- ・降雨/暴風など異常気象対策(JR東日本/官公庁)

③インフラ老朽化対策 (長寿命化)

- ・新幹線大規模改修(JR東日本) (P.23)
- ・新幹線レール交換(〃) (P.38)
- ・道路、橋りょう、高架橋などの補強・維持・更新(官公庁) (P.24)

④東京オリンピック・パラリンピック (インバウンド)

- ・競技会場周辺駅等の改良(JR東日本) (P.25)
- ・首都圏ホテル事業強化(〃) (P.25)
- ・暑熱対策(官公庁) (P.25)

⑤首都圏鉄道ネットワークの ブラッシュアップ

- ・品川再開発プロジェクト(新駅・線路切換・街づくり) (P.26)
- ・中央線グリーン車サービスに伴う駅・線路改良 (P.27)
- ・羽田アクセス線構想 (P.27)



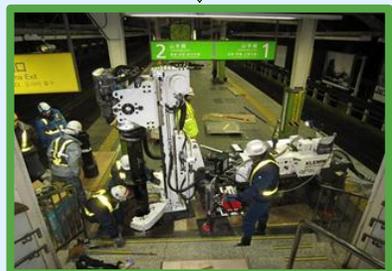
ホームドア設置までの施工フロー例 (高田馬場駅、目白駅などの場合)



①重機搬入



⑥設置完了



②杭打設



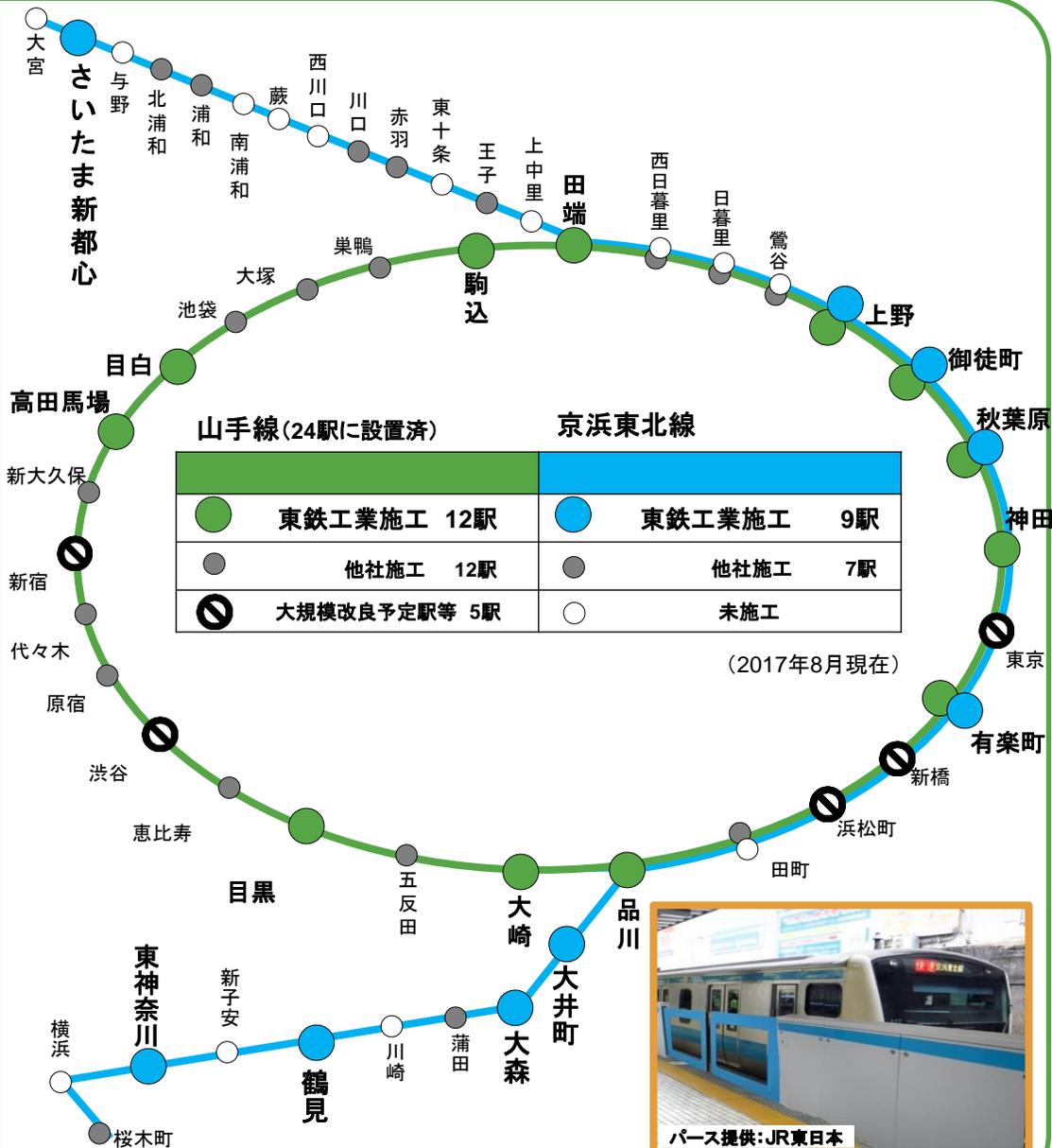
⑤ホームドア設置



③受台設置



④PC板設置



パース提供: JR東日本

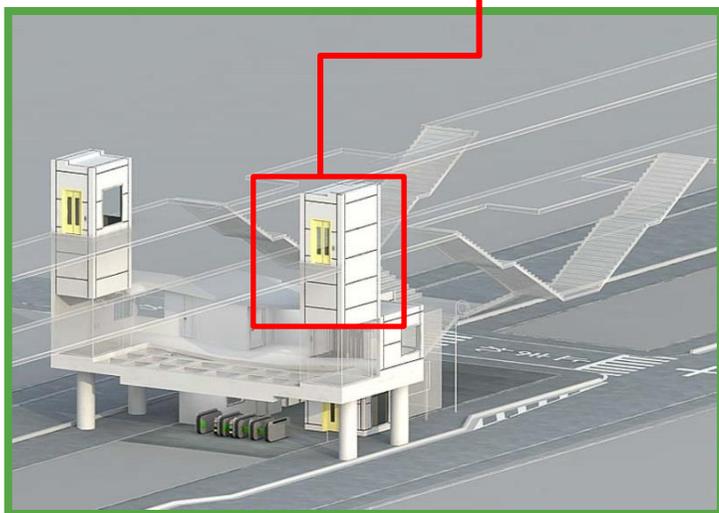


駅施設などのバリアフリー化

免震マンション



ホーム上エレベーター



JR総武線浅草橋駅バリアフリー化工事



ライオンズ立川グランフォート新築工事
(免震マンション)



東日本大震災への対応 (JR東日本 常磐線)



第一前田川橋りょう(大野～双葉間)
【復旧前】



【現況】



室原川橋りょう(浪江～桃内間)
【復旧前】



【現況】



富岡駅
【復旧前】



【現況】



◎首都直下地震対策関連工事(施工事例)

- ・盛土(擁壁)補強工事(御茶ノ水駅付近)
- ・橋脚耐震補強工事(毛渡沢橋りょう)
- ・切土耐震補強工事(信濃町駅付近)



- ・レンガアーチ高架橋補強工事(新橋駅付近)



(御茶ノ水駅付近)



- ・駅舎等天井耐震化工事(大宮駅)



◎首都直下地震対策関連工事の実績と見通し

	'13/3期 実績	'14/3期 実績	'15/3期 実績	'16/3期 実績	'17/3期 実績	5年間 累計	'18/3期 見通し
受注	135億円	230億円	272億円	165億円	137億円	941億円	約87億円
完工	32億円	130億円	223億円	231億円	212億円	830億円	約133億円



◎更なる耐震補強対策の取組み (JR東日本プレスリリースより抜粋)

赤枠は当社に関連するもの

(1) これまで実施している対策のエリア拡大が検討されるもの

高架橋柱、山岳トンネル覆工、電化柱(モルタル基礎)、盛土(高さ6m以上)、桁支点部等、無筋橋脚

【新幹線】 南関東+仙台+活断層近接区間から活断層近接区間 (最新の知見) へエリア拡大を検討するもの			【在来線】 現在実施している区間外へエリア拡大を検討するもの		
高架橋柱	山岳トンネル 【覆工】	電化柱 【モルタル基礎】	盛土 【高さ6m以上】	桁支点部 【斜角桁】	無筋橋脚

(2) 新たな対策として検討されるもの

山岳トンネル路盤、桁支点部、電化柱(砂詰め基礎)、盛土(高さ6m未満)、ホーム、ホームの上家等

【新幹線】			【在来線】		
山岳トンネル 【路盤】	桁支点部 【ピン沓】	電化柱 【砂詰め基礎】	盛土 【高さ6m未満】	ホーム 【盛土式】	ホームの上家



降雨／暴風など異常気象対策



JR総武線 降雨防災強化工事



JR常磐線 那珂川橋りょう防風柵設置工事



JR上越線 降雨災害応急工事



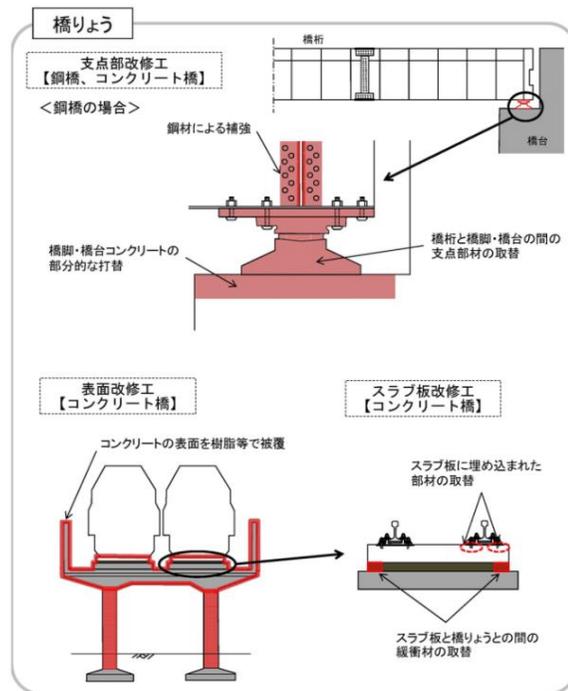
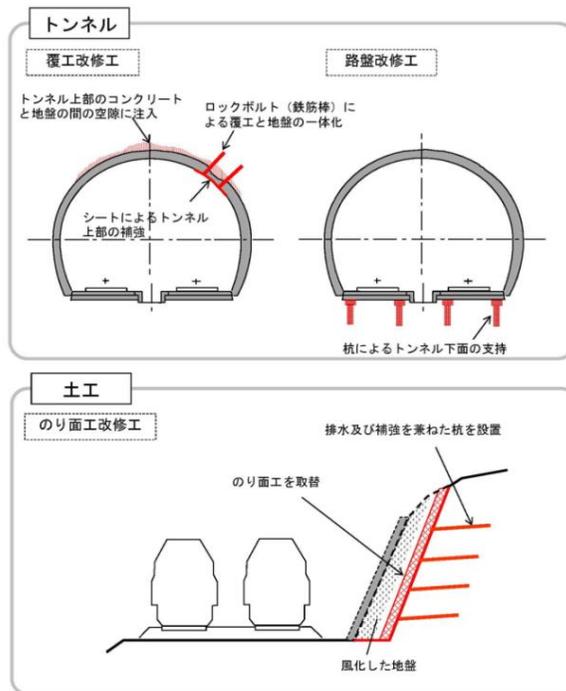
JR総武線 江戸川橋りょう防風柵設置工事



新幹線大規模改修



大規模改修の概要		
対象施設		主な工事内容
橋りょう	鋼橋	支点部改修工
	コンクリート橋	表面改修工、スラブ板改修工、 支点部改修工
トンネル		覆工改修工、路盤改修工
土工		のり面工改修工



(JR東日本 プレスリリースより)

- ・JR東日本では、1982年開業の東北・上越新幹線について、大規模な改修を予定。
- ・2031年～40年度の10年間で1兆円規模を投資。
- ・当社としても効率的な施工方法の検討、必要な機械の開発、新規材料の開発・提案など、グループ会社の興和化成(株)とも協働して、中長期的な視点に立った土木構造物の大規模改修工事を推進していくための準備体制を構築し、積極的な参画を目指し「新幹線大規模改修本部」を新たに設置。

- ・JR東日本が新幹線大規模改修における材料・工法を公募(2017年8月1日～2018年3月30日)「新幹線大規模改修本部」を中心に、積極的な参画を目指す。



道路、橋りょう、高架橋などの補強・維持・更新



(全景)



(改修前)



(旧橋りょう)



(新橋りょう)

JR常磐線 利根川橋りょう改良工事



御茶の水 聖橋長寿命化工事
(東京都 財務局)



競技場周辺駅の改良／首都圏ホテル事業強化

暑熱対策



パース提供:JR東日本

JR中央線 千駄ヶ谷駅改良工事
(国立競技場最寄駅)



パース提供:JR東日本

JR東日本 秋葉原ホテルメッツ新築工事



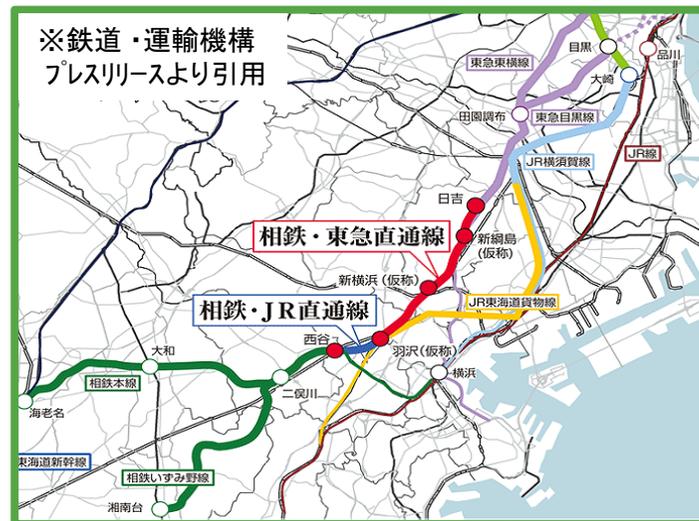
オリ・パラに向けた暑熱対策技術公開テスト(国交省)
(公開テスト対象に当社「トスラシステム」が選定される)



首都圏鉄道ネットワークのブラッシュアップ



品川駅改良軌道工事



相鉄・JR直通線西谷軌道敷設



東武野田線 六実～逆井間複線化工事
(東武鉄道株)



相鉄・JR直通線西谷軌道敷設
(鉄道・運輸機構)

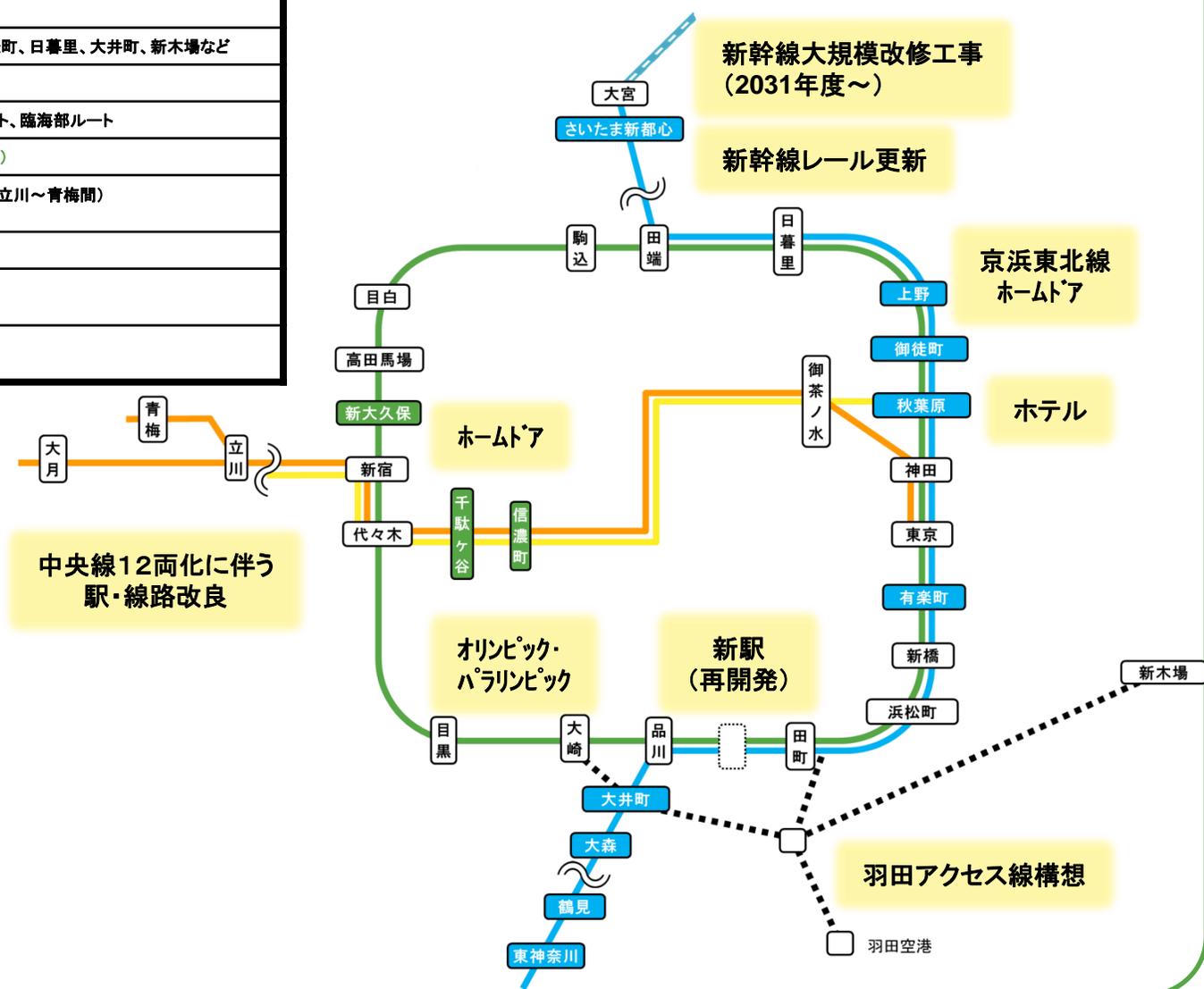
3. 環境認識と事業展開

今後予想されるプロジェクト



今後予想されるプロジェクト(JR東日本、国交省リリース等より)※緑字は受注済案件(2017年8月現在)

ホームドア	京浜東北線各駅(上野、大井町、鶴見、さいたま新都心、有楽町、御徒町、大森、東神奈川、秋葉原)、千駄ヶ谷、信濃町など
ホテル	秋葉原
オリンピック・パラリンピック	千駄ヶ谷、信濃町、有楽町、新橋、浜松町、日暮里、大井町、新木場など
新駅(再開発)	品川～田町間軌道移設
羽田アクセス線構想	羽田空港～西山手ルート、東山手ルート、臨海部ルート
駅改良	東京(北通路)、新大久保(バリアフリー)
中央線12両化に伴う駅・線路改良(2022年度～)	中央快速線(東京～大月間)、青梅線(立川～青梅間)全44駅及び車両基地等
新幹線レール交換	東北新幹線(大宮以北)
更なる首都直下地震対策関連工事	(P. 21ご参照)
新幹線大規模改修工事(2031年度～)	東北新幹線、上越新幹線





4. 中期経営計画

P. 29~35

5. 今後の展望

P. 36~39



4. 中期経営計画 (1) 中期経営計画『東鉄3D Step2018』

1. 『東鉄3D Step2018』 基本方針

- ・前中計『東鉄3D Hop2015』の成果を踏まえ、基本方針、基本戦略(『3D戦略』)は、一部ブラッシュアップのうえ継続
- ・新中計を、新たに『東鉄3D Step2018』としてスタート

基本方針

- (1)
- | | |
|---|---|
| ① | 「経営理念(～安全はすべてに優先する～)に基づいた軸のブレない経営」 |
| ② | 「全てのステークホルダーから信頼される誠実なCSR経営」 |
| ③ | 「攻め(収益力/資本効率)」と「守り(リスク管理)」の「バランスのとれたコーポレートガバナンスによる経営」 |

により、社会やお客様の安全・安心・安定・快適・品質などの様々なニーズに的確にお応えし、当社の「社会的使命」をしっかりと果たす。

- (2) 「量」(「成長戦略」)と「質」(「クオリティ戦略」)のベストバランスにより、「持続的な企業価値の向上」を図り、「堂々たる成長の時代」への『Step』を切り拓く。

- (3) 「基本戦略」となる『3D戦略』(スリーディ戦略)は不変。
(前)中計を第一期の『Hop』と位置づけ、(新)中計では第二期の『Step』としてさらなる飛躍に挑戦。

前中計(2012～2015):『東鉄3D Hop2015』



新中計(2015～2018):『東鉄3D Step2018』を新たにスタート



4. 中期経営計画 (1) 中期経営計画『東鉄3D Step2018』

2. 『東鉄3D Step2018』 基本方針(イメージ図)

X軸(顧客層のウイングの拡大)
Y軸(業域の深掘り)

3D戦略

Z軸(「安全」・「品質」・「技術力」
・「施工力」・「企業力」)

成長戦略

量

成長力(トップライン=売上高)

収益力(ボトムライン=利益額)

バランス

ベスト

バランス

クオリティ戦略

質

「安全」・「品質」・「技術力」・「施工力」・「企業力」

特に力を入れる取り組み

- ・JR東日本関連業務をコアとして経営資源を重点投下
- ・顧客層のウイングを拡大し、土木/官公庁や建築/民間一般などの受注も増強
- ・強みである業務分野を徹底強化の上、業域を更に深掘り
- ・オリンピック・パラリンピック・海外関連など、新しい機会にも挑戦
- ・不採算工事は徹底排除した上で、「利益額の最大化」を図る

特に力を入れる取り組み

- ・「安全はすべてに優先する経営」の徹底
- ・「品質・技術力」のたゆまざる維持・強化
- ・工事量増大に伴う「施工力」の強化
- ・「人」「環境」への誠実な取り組み
- ・「コーポレートガバナンス・コード」への積極的対応
- ・資本効率・株主還元の重視
(ROE・総還元性向の目標化/中間配当など)
- ・取締役会の実効性確保(複数独立社外取締役の選任など)
- ・「成長戦略」の一環としての企業力強化(M&Aなど)

数値目標	連結	前々中計実績	前中計実績	新中計目標(変更後)
		'12/3	'15/3	'18/3(最終年度)
売上高		869億円	1,161億円	当初1,400億円⇒1,350億円
営業利益		66億円	93億円	当初 120億円⇒ 130億円以上

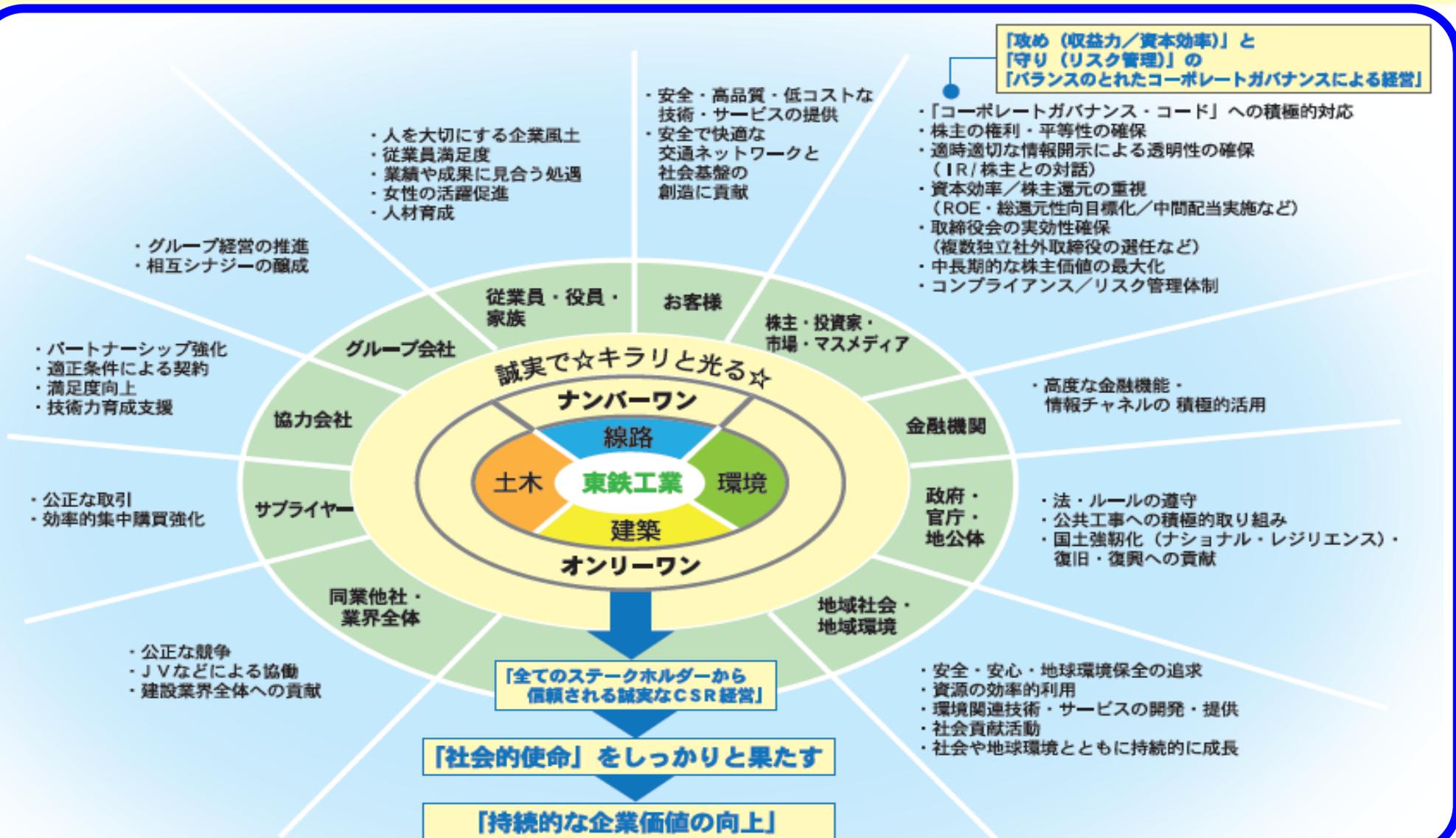
数値目標	連結	新中計目標
		'18/3(最終年度)
ROE		10%以上
総還元性向		30%



4. 中期経営計画 (1) 中期経営計画『東鉄3D Step2018』

3. 『東鉄3D Step2018』 基本方針(ステークホルダーに対する取り組み方針)

「全てのステークホルダーから信頼される誠実なCSR経営」の推進



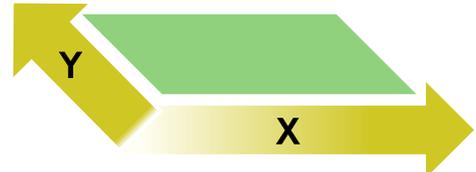


1. 『3D戦略』 概要

「量」を拡大させる
「成長戦略」

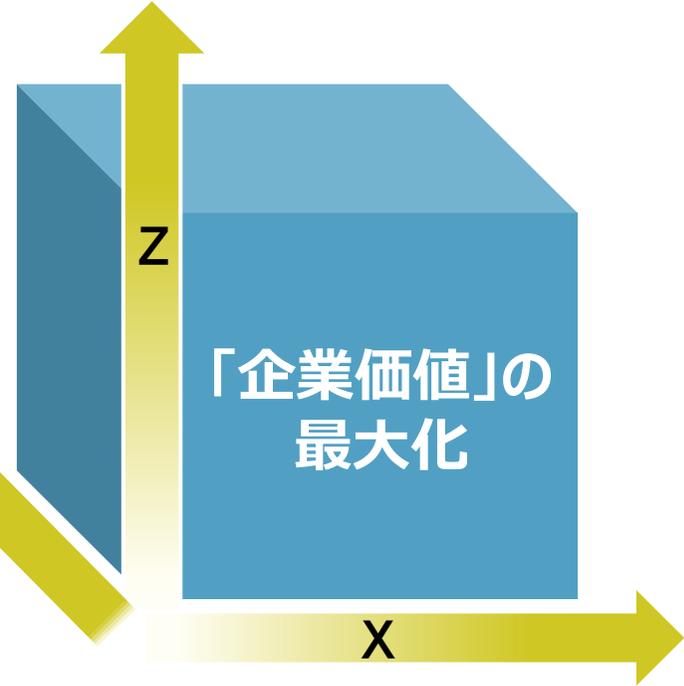
「質」を向上させる
「クオリティ戦略」

Y軸戦略(縦軸)
「業域」の深掘りによる拡大



X軸戦略(横軸)
「顧客層」のウイングを拡大

=



「企業価値」の
最大化

$X \times Y = \text{「面積」}$

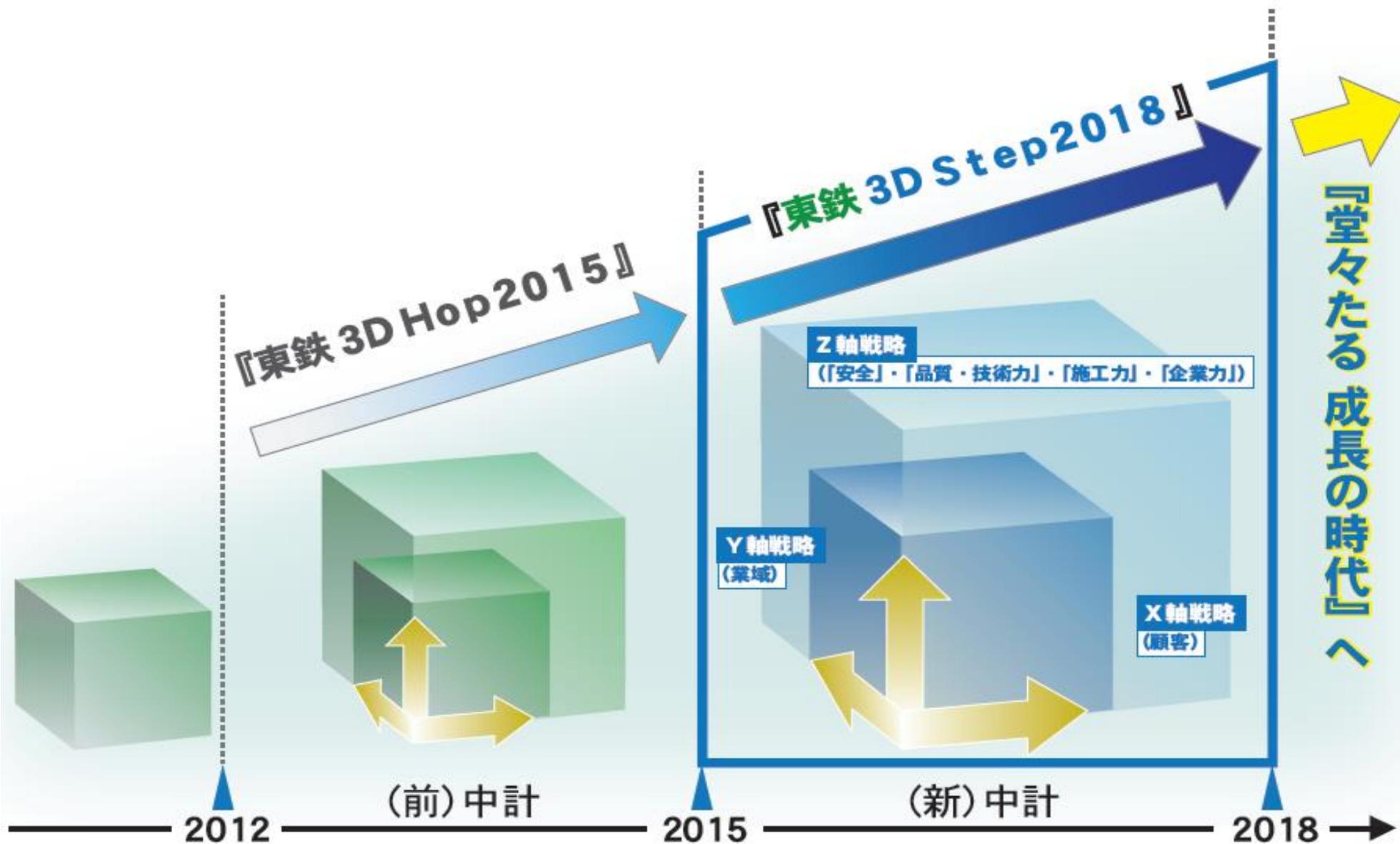
$X \times Y \times Z = \text{「体積」を拡大}$

(3D : 3Dimensions (三次元))



4. 中期経営計画 (2)『3D戦略』

2. 『3D戦略』イメージ図

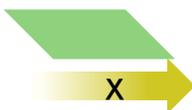




4. 中期経営計画 (2)『3D戦略』

3. 『3D戦略』 施策

(1) X軸戦略(横軸)＝「成長戦略」



① 当社最大の強み・使命＝JR東日本関連業務

最大最重要顧客であるJR東日本からの受注・パートナーシップは当社の最大の強みであり、安全な工事の遂行は社会的使命

⇒ JR東日本関連業務に経営資源を継続的に重点投下し、徹底的に強化

② 顧客層のウイング拡大

その上で、新たな顧客層のウイング拡大を図る「成長戦略」を展開

⇒ JR東日本以外の顧客からの業務量を、将来的にはJR東日本と同レベルまで拡大を展望

⇒ 線路/私鉄・公共鉄道 } からの受注強化が成長戦略の鍵
土木/官公庁・私鉄 }
建築/民間一般 }

(2) Y軸戦略(縦軸)＝「成長戦略」



① 当社の強みである業務分野は徹底的に継続強化

- ⇒ {
 - ・鉄道関連工事
 - ・交通・社会インフラ関連工事
 - ・防災・耐震(含む、免震)・老朽化・復興関連工事
 - ・住宅・非住宅(駅舎・オフィス・店舗・工場など)建設
 - ・少子・高齢化関連工事(保育園・老人福祉施設など)
 - ・メンテナンス(維持・補修・修繕)関連工事
 - ・環境関連工事(緑化、太陽光発電など)

② その上で、関連業域の深掘りによる拡大強化／新しい成長機会に挑戦

- ⇒ 関連業務の業域拡大
 - ・新幹線大規模改修及び新幹線レール交換など
- ⇒ 新しい社会環境の変化、時代の要請に応じた業域の拡大
 - {
 - ・オリンピック・パラリンピック関連
 - ・国土強靱化計画・地方創生
 - ・海外関連



3. 『3D戦略』 施策

(3) Z軸戦略(高さ軸)＝「クオリティ戦略」



① 「安全はすべてに優先する経営」の徹底

- お客様・地域社会・従業員の「究極の安全と安心」を追求
- 実効性のある具体的な教育・訓練の継続実施

② 「品質・技術力」のたゆまざる維持・強化

- 安全・安心で、高付加価値・高品質の技術・サービス・商品の提供により、お客様の高い満足度と信頼の確保を図る

③ 「施工力」の強化

- 工事量増大に伴う「施工力」の強化
- 協力会社とのパートナーシップ強化
- M&Aによる施工力増強も選択肢の一つ

④ 企業力の向上

- 「すべてのステークホルダーから信頼される誠実なCSR経営」の推進
 - ・それぞれのステークホルダーに対する取り組み方針
 - ・「人」を大切にする風土づくり
 - ・「環境」への取り組み
- 「攻め(収益力/資本効率)」と「守り(リスク管理)」の「バランスのとれたコーポレートガバナンス」による経営
- 「成長戦略」の一環としての企業力強化
 - ・剰余金の有効活用
 - ・業容拡大に伴う運転資金・M&A・設備投資などによる拡大再生産
 - ・株主・顧客・協力会社・従業員等への適切な還元・配分
 - ・利益改善に対する継続的な取り組み
 - ・グループ連結経営の強化
 - ・海外関連事業の検討
 - ・財務体質の継続的強化



①安全・安心ニーズの高まり

②復旧・復興・防災・減災対策

③インフラ老朽化対策
(長寿命化)

④東京オリンピック・パラリンピック
(インバウンド)

⑤首都圏鉄道ネットワークの
ブラッシュアップ

ますます
高まりつつある
ニーズ





経営課題（持続的な成長を目指して）

◎生産性向上、技術開発

- ・機械化、新技術の導入
- ・働き方改革

◎教育、研修制度

- ・研修内容、設備等の充実

◎人材確保、育成

- ・女性社員等の活躍推進
- ・協力会社との関係強化

- ・これらの経営課題について、社員自ら実効性のあるソリューションやプランを検討
- ・具体的な提言を経営・業務改善に活かすためプロジェクトチームを設置



5. 今後の展望 新幹線レール交換システム(通称REXS:Rail EXchange System)

新幹線レール交換システム(通称REXS:Rail EXchange System)



フラッシュバット溶接車

レールマニピュレータ

モーターカー



開業から35年が経過し、交換時期を迎えた東北新幹線のレール交換作業に、「**新幹線レール交換システム(通称REXS:Rail EXchange System)**」を導入し、'17年度より本格稼働いたしました。このREXSは、レール交換の主な作業であるレールの運搬・積みおろし・溶接・交換を種々の大型機械を組み合わせる一つのシステムとして行うことができる世界初の保守用車となります。



協力会社との連携強化

ビジネスパートナーとともに

当社は、協力会社の皆様を大切なビジネスパートナーと考え、健全な取引関係と相互信頼の向上はもとより、協力会社社長会などの取り組みを通じ、更なる連携強化に努めております。

・安全衛生協力会加盟社数946社(2017年7月現在)

東鉄工業パートナー広報誌「Professional」

協力会社との一層のパートナーシップ強化を目的に、現場の最前線で活躍されている協力会社の社員の皆様や、各社のプロフィールなどを掲載。

2013年6月の創刊以来、年4回発行、最新号は17号となり、すでに100社を超えるパートナー会社を掲載・紹介。



教育・研修制度

教育・研修制度

当社は、経営理念の実現に向け、特に施工に携わる全ての従業員が、鉄道関連工事の真のプロフェッショナルとなれるように、東鉄技術学園をベースに、施工本部ごとに目的別の専門研修を実施しています。

東鉄技術学園

東鉄技術学園は、2008年に設置された次世代の東鉄マンを育成するための専門機関です。

理論から徹底的に学べるように経験豊富なベテランの講師が年次、能力に応じてきめ細やかな教育を行っております。





6. 業績推移

P. 41~47

7. ご参考

P. 48~49



6. 業績推移 (1)'17/3期実績 及び'18/3期見通し

'17/3期:4年連続過去最高益を更新

'18/3期:更なる増収増益、中計最終年度数値目標達成を目指す

(百万円、%)

(連結)	'16/3期	'17/3期			'18/3期	'18/3期
	実績	実績	'16/3期比		(見通し)	(中計目標)
			増減額	増減率		
前期繰越高	75,321	69,910	△5,410	△7.2%	72,864	-
受注高	115,456	127,067	+11,610	+10.1%	124,000	-
売上高	126,807	130,634	+3,826	+3.0%	135,000	135,000
売上高総利益	19,180	20,085	+904	+4.7%	20,500	-
(売上高総利益率)	(15.1%)	(15.4%)	(+0.2P)	-	(15.2%)	-
営業利益	12,480	13,371	+891	+7.1%	13,400	13,000以上
(営業利益率)	(9.8%)	(10.2%)	(+0.4P)	-	(9.9%)	-
経常利益	12,749	13,668	+918	+7.2%	13,700	-
(経常利益率)	(10.1%)	(10.5%)	(+0.4P)	-	(10.1%)	-
当期純利益	8,518	9,583	+1,064	+12.5%	9,600	-
(当期純利益率)	(6.7%)	(7.3%)	(+0.6P)	-	(7.1%)	-
ROE	14.4%	14.6%	+0.2P	-	-	10%以上
総還元性向	27.0%	28.0%	+1.0P	-	-	30%

2016年11月
自己株300,000株取得後

2017年5月
自己株291,600株取得後

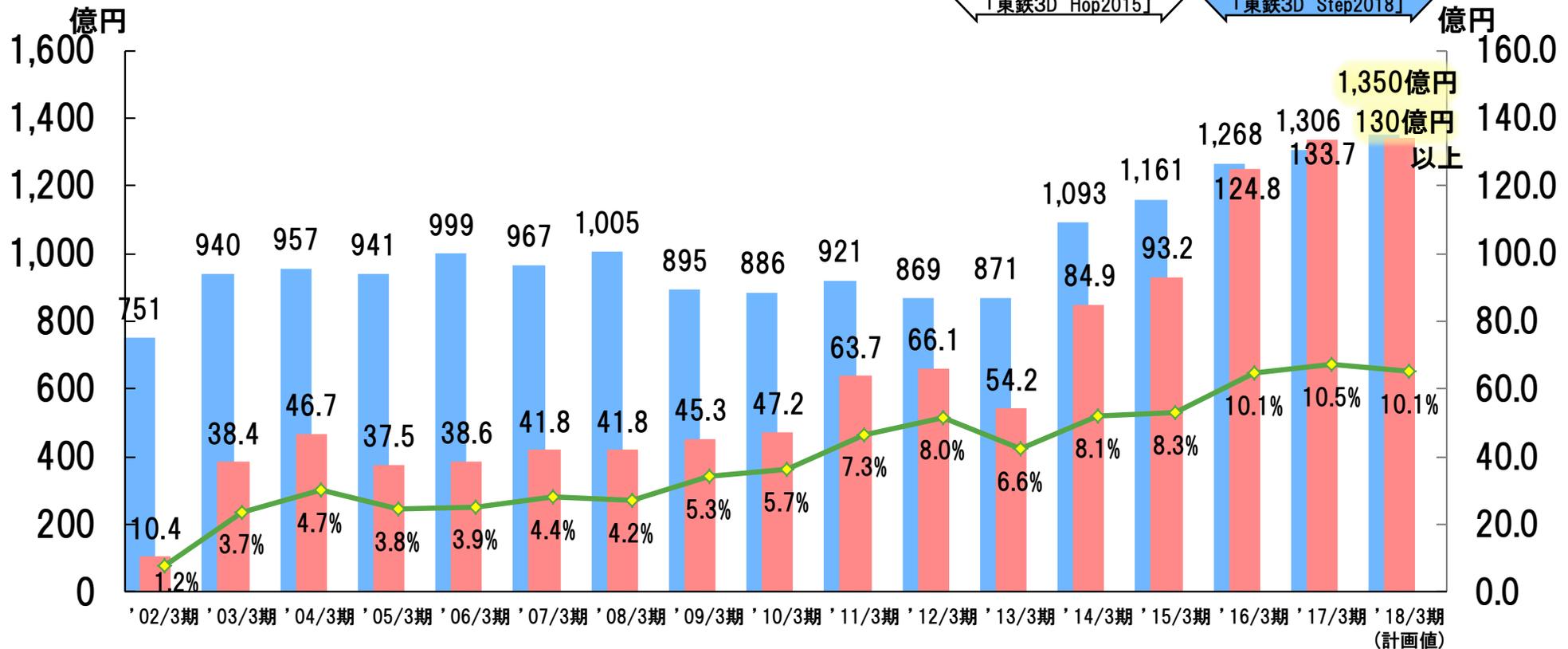
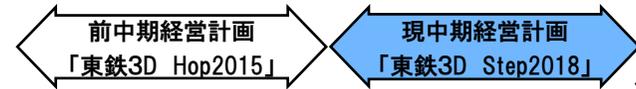


6. 業績推移 (2)業績推移

売上高・営業利益・経常利益率 (連結)

(□:達成項目)

連 結	(現)中計		
	'16/3(実績)	'17/3(実績)	'18/3(目標)
売上高	1,268億円	1,306億円	当初1,400億円⇒1,350億円に変更
営業利益	124億円	133億円	当初 120億円⇒ 130億円以上に変更
ROE	14.4%	14.6%	10%以上
総還元性向	27.0%	28.0%	30%

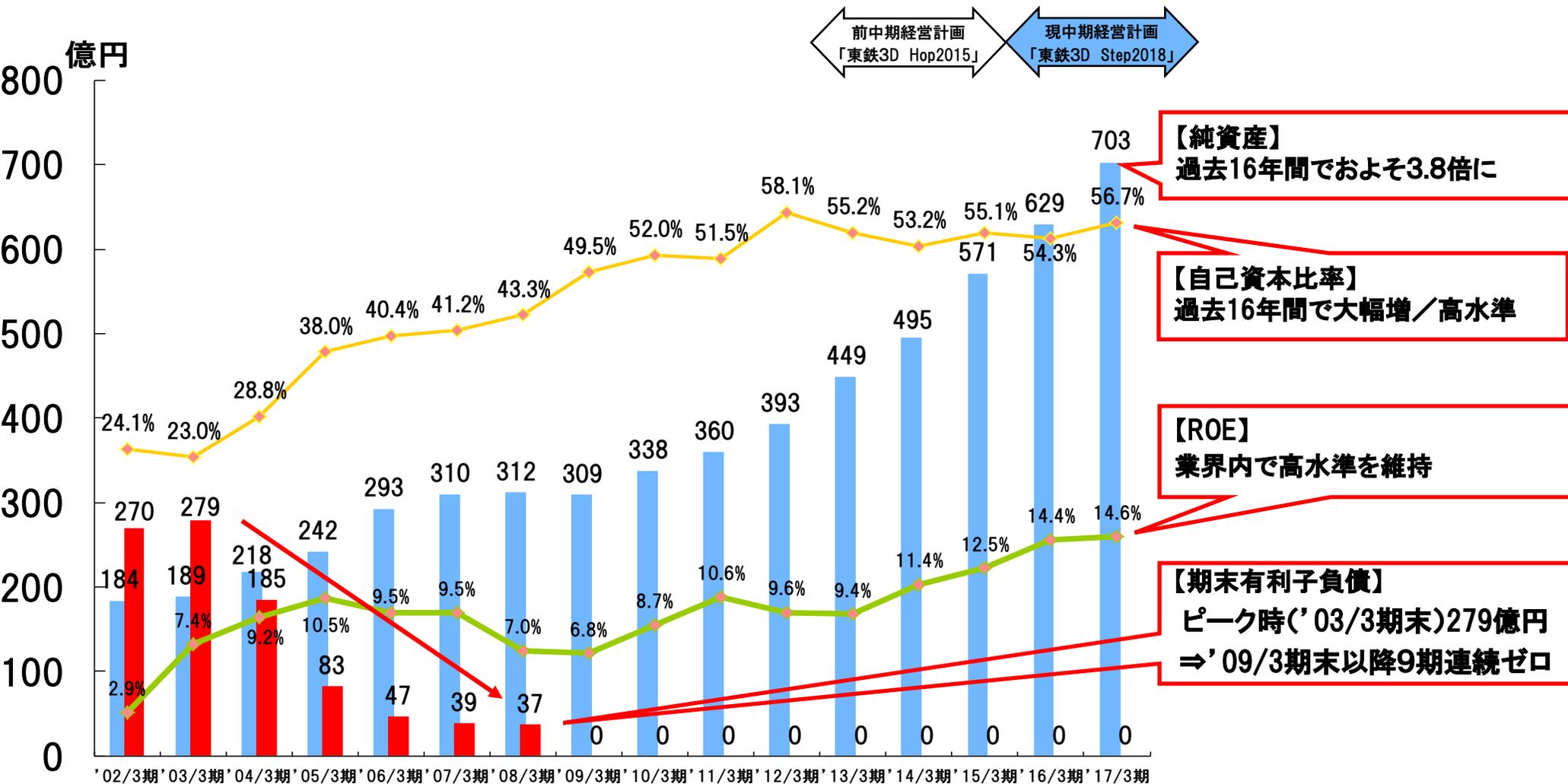


■ 売上高 ■ 営業利益 ◆ 経常利益率



6. 業績推移 (2) 業績推移

自己資本比率・純資産・ROE・期末有利子負債 (連結)

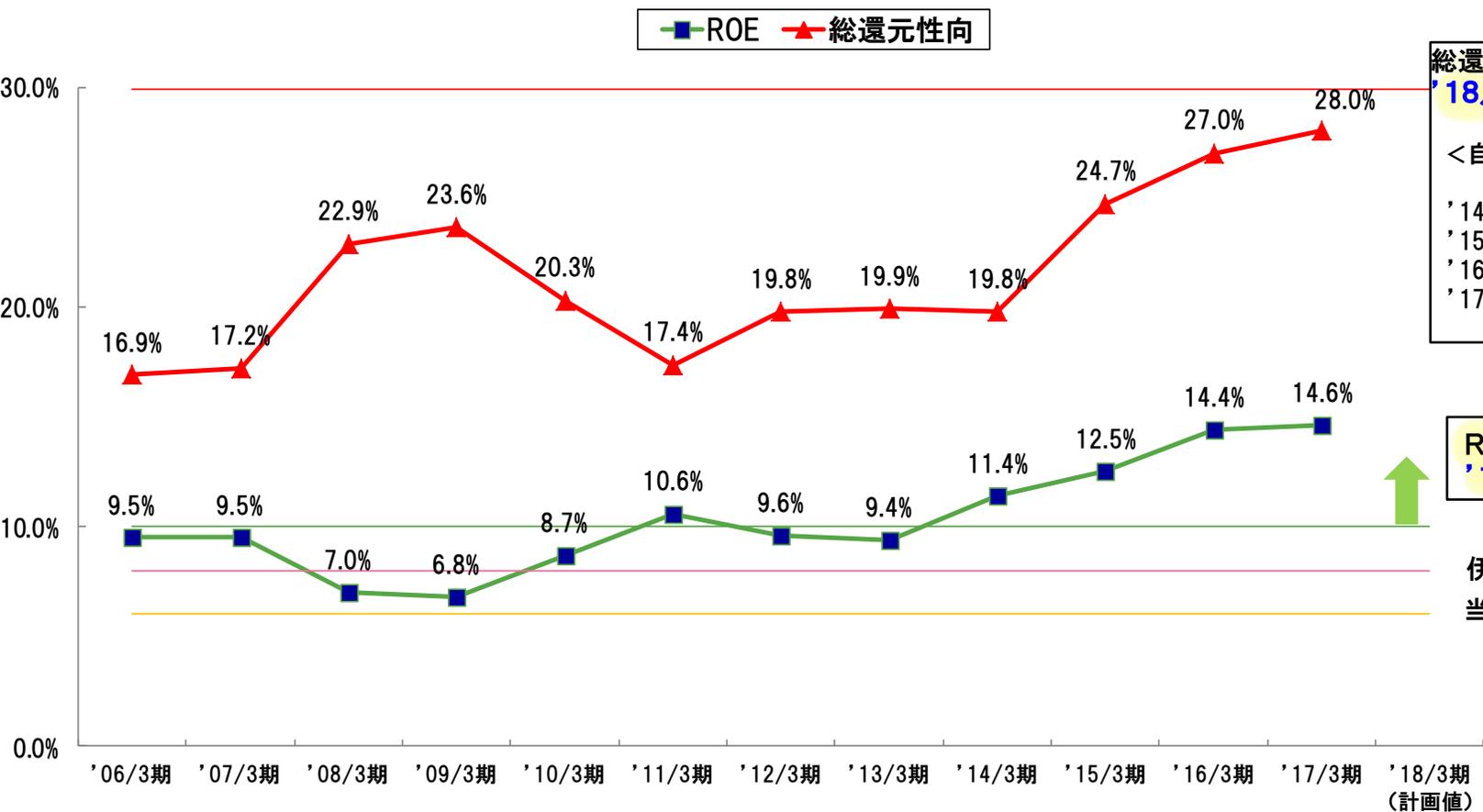




6. 業績推移 (2) 業績推移

- ROE10%以上、総還元性向30%を目標化
- 資本効率を重視した企業価値向上と持続的成長を目指す

【ROE・総還元性向の推移】(連結)



総還元性向
'18/3期目標30%

<自己株式取得の推移>

取得時期	取得株式総数	取得価額総額
'14/ 5月	10万株	1.97億円
'15/ 5月	20万株	5.49億円
'16/11月	30万株	8.90億円
'17/ 5月	約30万株	9.99億円

ROE
'18/3期目標10%以上

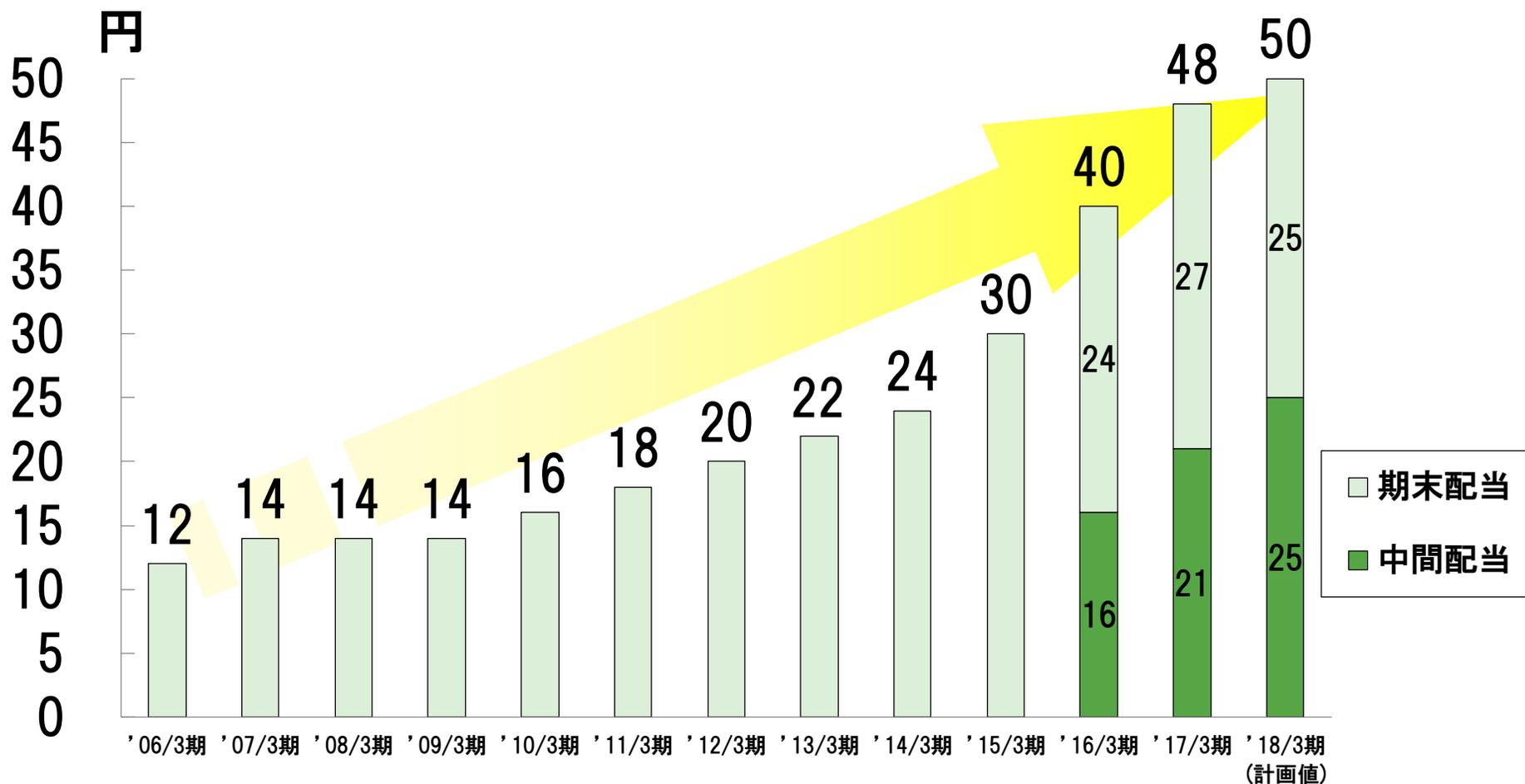
伊藤レポート8%
当社株主資本コスト5~6%





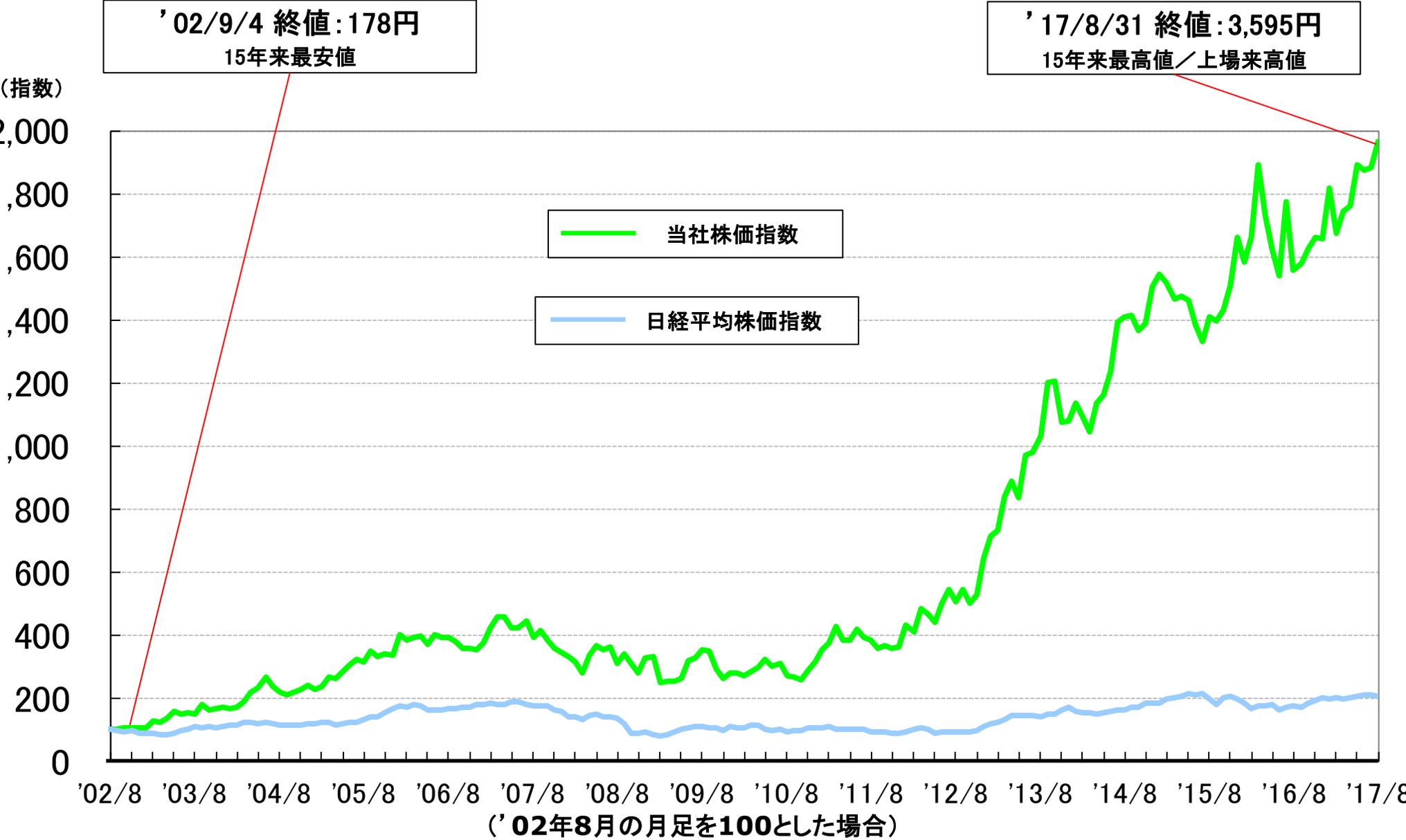
6. 業績推移 (3) 配当額の推移

- ・株主還元の充実: '17/3期48円配当 前期比8円の大増配、
8期連続増配(連続増配回数は、上場建設会社最多)
'16/3期からは中間配当も実施





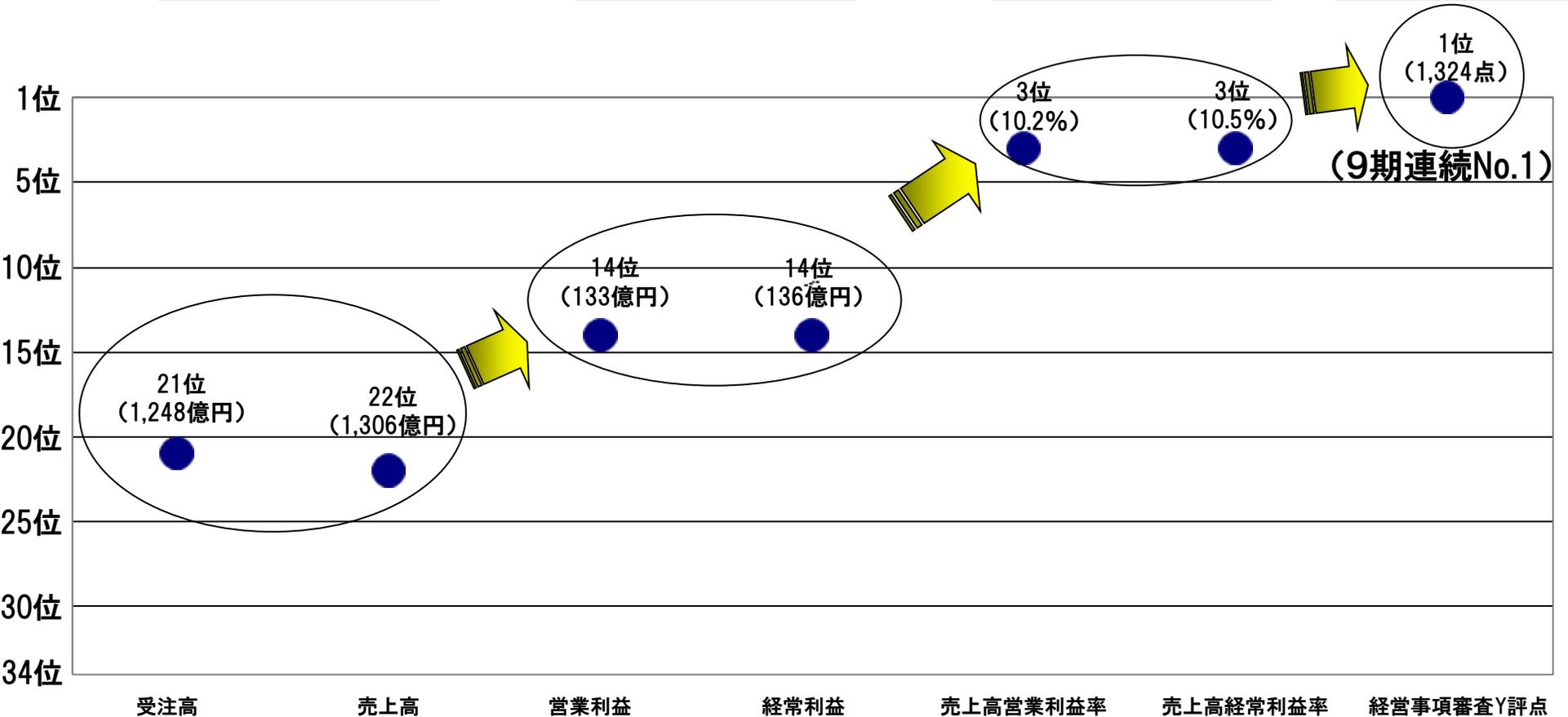
6. 業績推移 (4) 過去15年間の株価推移





6. 業績推移 (5) 業界地位

受注・売上高 利益額 利益率 財務指標
 (経営事項審査Y評点)



注1: 建設経済研究所による主要建設会社決算分析40社の内、一部上場34社を対象

注3: 出典: 2017年3月期決算短信

注2: 上記数値及び指標は連結決算ベースで集計(受注高のみ単体集計) 数値及び順位については一部推定によるものも含む

注4: 経営事項審査Y評点は、2017年3月期時点での直近決算数値より当社が試算した推定値 (公共工事の入札に参加する建設業者の経営状況を国土交通省が定めた基準により表す指標)



代表取締役社長
柳下 尚道(やぎした なおみち)

略歴:

- | | |
|---------|--|
| 昭和30年 | 神奈川県横浜市出身 |
| 昭和54年 | 東京大学 工学部土木工学科 卒業
国鉄入社(四国総局(高松)、大阪鉄道管理局(吹田)など) |
| 昭和62年 | 東日本旅客鉄道株式会社(勤務地:本社、盛岡、新潟など) |
| 平成 5年 | 経営管理部 調査役(株式上場後初代のIR担当) |
| 平成20年 | 取締役 鉄道事業本部 設備部長
東鉄工業(株)社外取締役就任(平成20年6月～平成22年6月) |
| 平成22年 | 常務取締役 鉄道事業本部 副本部長
(東日本大震災の復旧に従事) |
| 平成24年 | 常務取締役 鉄道事業本部長
(安全対策、防災対策、輸送改善、サービス向上などに従事) |
| 平成26年 | 代表取締役 副社長 |
| 平成28年6月 | 東鉄工業(株) 代表取締役社長就任 |

趣味: ゴルフ、読書

信条: 「自由と責任」



7. ご参考 【当社HP/シンボルマーク・コーポレートカラー】

当社ホームページ『個人投資家の皆様へ』

トップメッセージや中期経営計画、最新のIR資料のほか業績の推移など各種データをご参照ください。



また、ホームページの動画ライブラリーにて、会社紹介等の動画もご覧いただけます。

シンボルマーク・コーポレートカラー



- 「シンボルマーク」は、旧来の社章をエンブレム化
 - ・モノクロの濃淡だけで表現した立体感溢れるフォルムの重厚感と安定感 ⇒「究極の安全と安心」の追求
 - ・メタリックな質感 ⇒「技術と品質」へのこだわり
 - ・エッジの輝き ⇒「先進性」「将来性」を表現

- 新たに制定した「コーポレートカラー」は、『緑』
 - ・東鉄工業の「緑」は、「シンシアグリーン(sincere green)」＝「誠実の緑」
 - ・「安全と安心」「誠実」「人」「環境」などへの思いを込めたもの

(2012年5月 制定)



日本IR協議会2015年度「IR優良企業賞」を受賞
(建設業界では初の受賞)



2012年度には「IR優良企業特別賞」を受賞



本日はご清聴誠にありがとうございました。

お問合せ先:

東鉄工業株式会社 経営企画本部 広報・IR部

TEL: 03-5369-7611

ホームページURL : <http://www.totetsu.co.jp>

免責事項

本資料は、当社の業績及び今後の経営戦略に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではありません。

本資料における業績予想及び将来の予想等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実な要素を含んでおります。従いまして、実際の業績等が様々な要因により異なる可能性がありますことをご了承ください。